

産地戦略

実施期間 令和8～12年度

実施主体 香川県グリーン農業コンソーシアム
都道府県 香川県
対象地域 香川県中讃地区
対象品目 アスパラガス



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

施設アスパラガスは、本県農業の主要品目の一つである。アスパラガス栽培では、栽培期間が同一圃場で多年に及ぶことから、土壌の状態を長期的に考慮した追肥が必要である。現状は、香川県栽培指導指針に沿って、各地域が作成した栽培ごよみに基づき、一律の成分量の追肥が行われているが、一般的に過剰施肥傾向となっていることが課題である。加えて、追肥は月に1回程度、手作業で実施しており、栽培管理にかかる労働時間の中で大きいウエイトを占めている。そこで、土壌分析に基づいた適正施肥と新追肥体系等で過剰施肥の低減による施肥量低減を目指す。併せて、緩効性肥料等を使用し、追肥の省力化を図る。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	収穫									刈取	収穫		
技術名	追肥									追肥			追肥：年間10回（月1回）



グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	収穫									刈取	収穫		
技術名	追肥							土壌分析			追肥		追肥：年間3～4回

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R7	目標R12	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	32	▶ 32	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	1.2	▶ 6	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	1.2	▶ 6	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	1	▶ 5	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要
〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	栽培ごよみに定められた一律規定量の追肥	▶ 土壌診断に基づいた適正施肥	過剰施肥の低減 化学肥料の使用量の低減
省力	栽培ごよみに基づく、月一回の施肥	▶ 緩効性肥料を用いた施肥	施肥回数の低減 労働時間の削減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学肥料の使用量低減（量）	52.8	▶ 22	N量（kg/10a）
環境 省力	施肥回数の低減	10	▶ 4	
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

グリーンな栽培体系の周知・情報発信、栽培マニュアルに基づく技術指導を行う。

関係者の役割

関係者名	農業試験場	農業改良普及センター		
役割	グリーンな栽培体系の周知・情報発信、栽培マニュアルに基づく技術指導	農業試験場と連携した栽培マニュアルに基づく技術指導		